

## (仮称)草津市立プール整備・運営事業の再入札に向けての対応について

## 1. 入札不調の要因について

標記事業については、草津市において、令和元年11月に入札公告を行ったが、参加表明のあった2者から、令和2年2月に「入札辞退届」が提出されたことから、入札不調となった。

この結果を受けて、県と草津市で辞退した2者に対してヒアリングを実施し、調査・分析を行った結果、入札参加に至らなかった主な要因として以下の点が考えられる。

- (1) 前回の入札においては、土木工事(道路工事等)をPFI事業の中で一体的に施工する予定であったが、事業者が土木工事に伴う各種行政手続きに起因する工期遅延や事業費増大リスクを危惧していた。
- (2) 光熱水費について、新規施設であることに加え、体育館などの他施設に比べて、光熱水費が占める割合が大きいことから、必要経費を見込みにくいとの指摘があった。
- (3) 長寿命化の観点から計画的な修繕が必要となる点や、ルール改正による備品更新の可能性について、事業者との考え方に相違があったほか、飛込プールに係る経費の反映が不十分であった。

## 2. 再入札に向けての対応

## (1) 事業者のリスク軽減

- ・一部の土木工事をPFI事業から除外し、草津市において先行して発注することにより、事業者が危惧している各種行政手続きのリスクを解消する(県土木交通部とも連携)。
- ・光熱水費について、国スポ開催年とその後3年間は実績による精算払いとすることにより、必要経費を見込みにくいというリスクを軽減する(他県のプールで事例あり)。

## (2) 事業費の精査

- ・長寿命化を見越した修繕やルール改正による備品更新などに要する費用について、再積算を行う。
- ・固定観客席数の見直し(1,250席から1,000席)、およびこれに伴うエレベーターの配置計画の見直し(2基から1基以上)、定期的な点検日を設けることなど、基本計画の変更が必要ない範囲で要求水準の見直しを行う。
- ・新型コロナウイルスの影響等による利用率の低下を踏まえた収入見込みとする。

### 3. 草津市の予算対応

PFI事業による再入札を実施するため、草津市においては、9月定例会議で補正予算案が可決され、下記のとおり、債務負担行為が設定された。あわせて、PFI事業から除外することとした、土木工事に要する現年予算についても可決されるとともに、債務負担行為が設定された。

#### <事業費>

(単位：億円)

項目	今回	前回入札時	差額
PFI事業	150.1	126.2	+23.9
土木工事	4.2	(PFIに含む)	+4.2
小計	154.3	126.2	+28.1

アドバイザー業務等	3.4	3.2	+0.2
合計	157.7	129.4	+28.3

※アドバイザー業務等には、既決予算や補助対象外経費を含む。

(参考：県負担額)

項目	今回	財政収支見通し
整備費	75億円	65億円
運営費(年間)	2億円程度	2億円程度

※上記の財政支援額については、全額補助の対象を25m屋内温水プール(飛込兼用)整備・運営費用の1/2と仮定し、本県が独自に試算したもの。

※上記金額については、国庫を考慮せずに試算しているが、草津市において、国費の活用を予定。

### 4. 今後のスケジュール(PFI事業)

- ・令和2年度 10月 入札公告(PFI)
- 2月 落札者の決定・公表
- ・令和3年度 4月 本契約の締結
- ↓ 設計、建設など
- ・令和6年度 6月 供用開始
- ・令和6年度 9月 国民スポーツ大会開催
- (→令和7年度)

※令和2年9月県定例会議において、土木工事に係る予算を上程。

※令和3年2月県定例会議において、PFI事業に係る予算を上程予定。

(PFI事業者決定後)